

<NPO法人等の非農家等との連携を実施している事例>

## ○景観や自然生態系の維持・向上に向けた取組

### 1. 集落協定の概要

|                |                            |            |    |       |     |
|----------------|----------------------------|------------|----|-------|-----|
| 市町村・協定名        | 三重県伊賀市種生 <sup>いがしたなお</sup> |            |    |       |     |
| 協定面積<br>150 ha | 田 (100%)                   | 畑          | 草地 | 採草放牧地 |     |
|                | 水稲                         | —          | —  | —     |     |
| 交付金額<br>300万円  | 個人配分                       |            |    | 50%   |     |
|                | 共同取組活動<br>(50%)            | 集落担当者の研修会等 |    |       | 5%  |
|                |                            | 水路農道等の維持管理 |    |       | 33% |
|                |                            | 鳥獣害防止対策    |    |       | 8%  |
| 積立             |                            |            | 4% |       |     |
| 協定参加者          | 農業者 34人                    |            |    |       |     |

### 2. 取組に至る経緯

当集落は伊賀市の南部山間地域に位置しているため、未整備田が多くを占める条件不利地域であり、また、高齢化による個別営農の困窮化、後継者不足等により農用地の管理が行き届かず、荒廃地が増加する傾向にあった。

このような状況の中、平成6年度当時の地区住民総会で、「種生地区活性化推進計画」を作成し、農地保全・景観保全・環境創造を目標に掲げて、県営ほ場整備や、史跡周辺整備などに取り組み、高齢者でも元気に農業が続けられるような集落環境の整備を進めおり、当制度においても、活性化推進計画を達成するうえで、重要な制度として位置づけられ、I期対策より取り組んできたところである。

### 3. 取組の内容

県営ほ場整備と同時期に、ほたるが水路に生息しやすいように自然石で水路を再整備した結果、年々ほたるの数が増加してきた。この自然生態系の保全活動では、地元の子も達と一緒に水路の清掃を行ったり、周辺地区との協働により「ほたるまつり」を実施している。

また、廃校となった木造校舎を整備活用する地域内のNPO法人と連携し、都市住民との交流が行われているほか、農家民宿の立ち上げも検討されている。

農道や農地法面の管理は共同取組で実施しているが、今後は営農活動の合理化に向け、共同機械の導入と、その後の営農組織化を検討している。



### 【集落の将来像】

農地の耕作者は、60歳後半から70歳半ばまでが中心であり、今後の農作業後継者の育成が急務となっている。そんな中、会社や役所勤めの団塊の世代が退職後、耕作を引き継ぐ期待が高まっており、その人たちを中心として当集落の共同作業等を行い、ほ場整備をした田畑の耕作を継続させる。

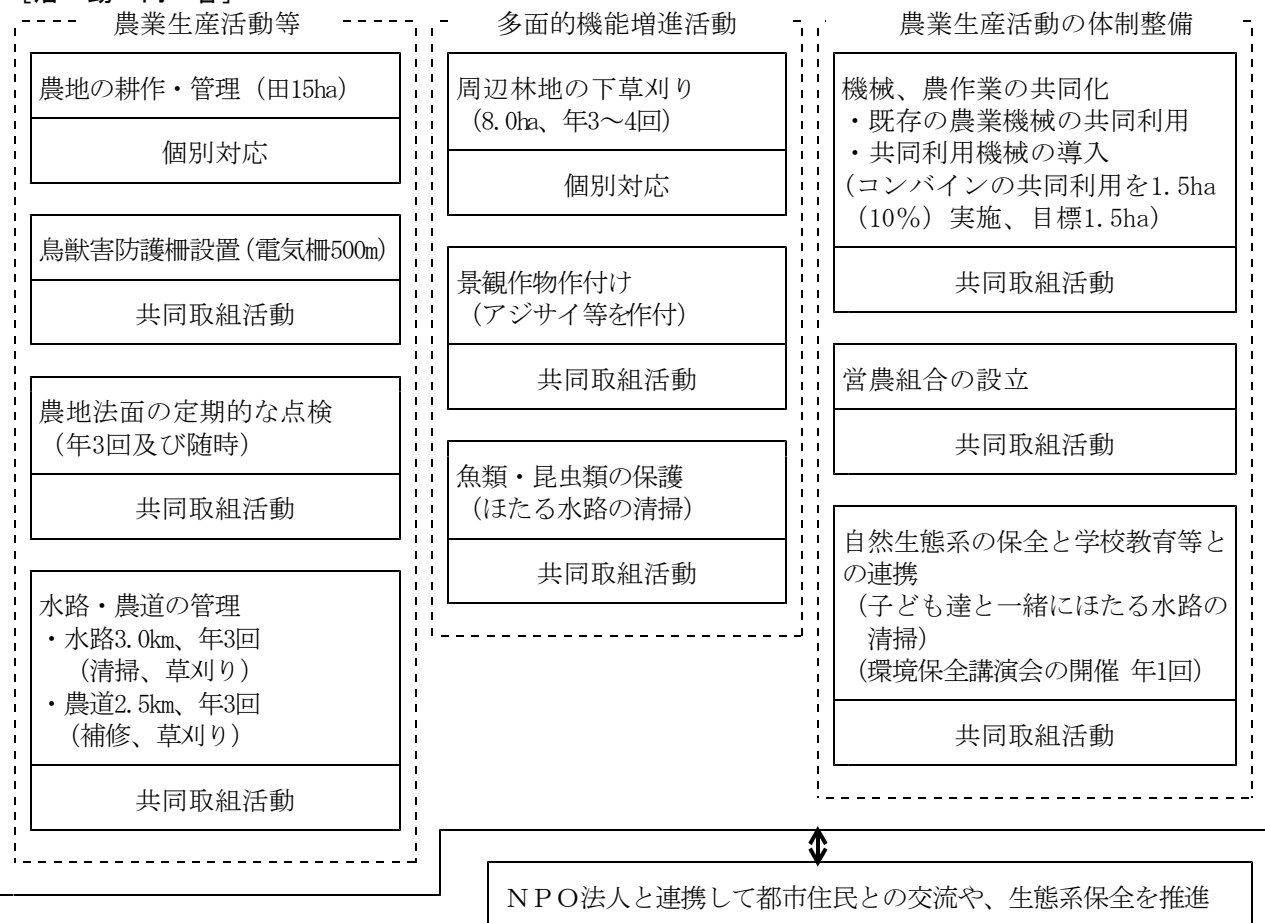
また、地域内に誕生したNPO法人等との連携により、都会の子ども達の体験学習の場としても活用するほか、地域景観の美化に向けての取組を進める。



### 【将来像を実現するための活動目標】

定年退職した団塊世代の中から、リーダーとなる担い手を選出し、組織的な維持管理について検討を進める。一方、ほ場整備を行っていない農用地については、今後維持管理ができるかどうかを検討した上で、林地化や景観作物の作付けも検討する。

### 【活動内容】



## 4. 取組による変化と今後の課題等

これまでの取組により、協定参加者のみならず、地域住民の環境に対する意識が向上し、地域の活性化が少しずつ進んでいる。一方で、高齢化による農作業の担い手づくりが課題となっているため、集落営農組織の設立を目指したい。

### 【平成21年度までの主な成果】

- 都市住民との交流による地域の活性化
  - ・ ほたるまつり参加者概数 (100人(H17)、200人(H18)、300人(H19)、400人(H20)、500人(H21))
  - ほたるウィークでは、毎年延べ2,000人以上の見学者が訪れている。
  - ・ 星空観察会参加者概数 (100人(H17)、200人(H18)、300人(H19))
- 個人で所有していたコンバイン・トラクター・田植機などの農業用機械の共同化 (1.5ha)